

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成29年10月23日(月)

事業所名 放課後等デイサービス このこのリーフ上本郷

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	2	1		子どもの特性に応じて活動スペースを分けている。	開閉自由な仕切りをつけることでよりよい環境作りを目指していく。
	②	職員の配置数は適切であるか		2	1	概ね2人に1人のスタッフを確保している。	子どもの特性に配慮し、人員確保していく。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	1		ほぼバリアフリー化されている。	床に敷いているマットに歪みが出る為、適宜交換していく。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか			3	職員間、情報共有に努めている。	職員同士、意見を発信しやすい環境作りをしていく。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか			3	保護者向けアンケート調査を実施した。	保護者の意向を踏まえて改善していく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公表しているか			3	アンケートの集計・公表を実施する。	専用の会報やホームページがないので、アンケート集計結果表を直接保護者に手渡し又は郵送する。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			3	第三者評価を行っていない。	第三者評価の取り入れも視野に入れていく。
適切な 支援の 提供	⑧	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	2	1		外部より講師依頼を実施している。	多くの職員が出席できるよう時間や回数を検討していく。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	1	2		子ども、保護者よりできる限り情報を引き出している。	子ども、保護者からの情報をもとにニーズを見極め計画作成していく。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2	1		独自のアセスメントツールを使用している。	独自のアセスメントツールに保護者からの情報を付け加えて子どもの適応行動の状況を把握していく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか		1	2	個々に行っている。	チームで行えるよう個々の質、意識の向上に努める。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	1	2		その場で子どもの様子を見ながら決めている。	活動プログラムが固定化しないように状況に合わせて工夫していく。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか			3	子どもの訴えに耳を傾けている。	個々を尊重し、必要なことは何かを探りながら課題設定していく。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3			子どもの特性を踏まえ、個別活動と集団活動を組み合わせ計画作成している。	発達課題を捉え、個々にあった活動を細かく計画に反映していく。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	1	2		申し送り帳での伝達や昼礼を行っている。	職員間で意見を出し合い、情報の共有をしていく。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか			3	職員個々に情報を聞いている。	職員間情報共有できるよう昼礼をうまく活用していく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	1	2		サービス提供記録をもとにモニタリングを行っている。	職員個々の質、意識の向上を高め、意見を出し合いながら支援の検証や改善につなげていく。
関係機 関や保 護者との 連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	3			月毎に記録を見返している。	子どもの成長や発達課題を捉え、計画の見直しの必要性を判断していく。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか			3	出来るだけ組み込み活動に取り組んでいる。	ガイドラインの総則の基本活動を柔軟に組み合わせ、個々に合わせた支援をしていく。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	3			職員より情報収集をし参加している。	記録、職員からの情報等を整理し会議に参加していく。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	3			お便り等で確認している。	学校のお便りや電話で確認するなどして情報共有していく。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			3	連携はない。	医療的ケアが必要な子供の受け入れはしていない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			3	連携はない。	現在のところ連携はないが今後に向けて体制を整えていく。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			3	連携はない。	該当者いない為、現在のところ連携はないが今後に向けて体制を整えていく。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		2	1	必要に応じて研修に参加している。	専門機関からの情報を積極的に収集していく。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	1	1	公園での交流がある。	地域を巻き込んだ環境作りを目指していく。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			3	現在はない。	今後参加を考える。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機 関や保 護者 との連 携	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		2	1	連絡帳や送迎時に共通理解を持っている。	理解を深めたい時には時間を設けて話し合っていく。
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		2	1	現在はない。	連絡帳でのアドバイスは行っていく。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	2	1		要点をまとめて行っている。	書類の受け渡しだけで契約している人が目立つ。必ずしも丁寧な説明を行っているとは言えない。
	㉓	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	3			電話や連絡帳、送迎時に行っている。	保護者の思いを傾聴し、子どもの様子を踏まえながら必要な助言や支援を行っていく。
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			3	現在はない。	保護者同士の連携を支援するために環境を整備する必要がある。
	㉕	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3			契約時に説明している。	迅速な対応に努めている。場合に寄っては管理者や代表が対応していく。
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			3	うまく発信できていない。	HPの整備や会報などの発行を考えていく。
	㉗	個人情報に十分注意しているか	3			配慮している。	職員に周知徹底していく。
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	1	2		個々の特性に応じ、努力している。	試行錯誤しながらも子どもや保護者にとって一番良い方法を探っていく。
非 常 時 等 の 対 応	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			3	現在ではできていない。	外出機会を増やし、子どもたちを知ってもらうことから始めていく。
	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			3	現在ではできていない。	マニュアルを作成し、職員や保護者に周知していく。
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか			3	現在ではできていない。	避難訓練の実施をしていく。
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	1	1	1	施設内研修を実施した。	研修をすることで日々の支援を振り返れるようにしていく。
	㉝	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		1	2	身体拘束にならないよう配慮しながら支援している。	身体拘束の事例がない。
	㉞	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		1	2	保護者の情報をもとに対応している。	医師の指示書に基づく対応をしていく。
	㉟	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		2	1	回覧しファイリングしている。	ヒヤリハットの報告が少ない為、気づきを培っていく。